

平成25年【第2回】 「いわて復興ウォッチャー調査」結果報告

1 目的

東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、被災地域において復興の動きを観察できる立場にある方々の協力を得て、復興感に関する調査を四半期に1回(3ヶ月に1回)実施する。

2 調査の概要

(1) 調査対象

被災した12市町村に居住又は就労している方153名

※原則として、毎回同じ方を対象に調査を実施

(2) 調査方法

郵送法(郵送による発送、返信用封筒による返送)

(3) 調査対象時期

平成25年5月(次回調査は平成25年8月予定)

(4) 調査項目

問1 被災者の生活の回復に対する実感(生活の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問2 地域経済の回復に対する実感(地域経済の回復度、直近3ヶ月間の進捗状況)

問3 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

(災害に強い安全なまちづくりの達成度、直近3ヶ月間の進捗状況)

(5) 回収結果

有効回収率 79.1%(121名/153名) <前回 86.9%(平成25年2月)>

(6) 回答者の属性

①性別

性別	人数	割合
男性	81	66.9%
女性	40	33.1%
不明	0	0.0%

②地域別

地域	人数	割合
沿岸北部	40	33.1%
沿岸南部	81	66.9%
不明	0	0.0%

③年齢別

年齢別	人数	割合
39歳以下	28	23.1%
40歳代	31	25.6%
50歳代	36	29.8%
60歳以上	20	16.5%
不明	6	5.0%

④住宅被害の有無

市町村別	人数	割合
被災あり	58	47.9%
被害なし	55	45.5%
不明	8	6.6%

⑤ 職業・所属等

- ・ 地域団体・郵便局関連(応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者)
49名(40.5%)
- ・ 教育・福祉施設関連(小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者)
36名(29.8%)
- ・ 産業・経済・雇用関連(漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者)
36名(29.8%)

■参考■

- 「回復度」又は「達成度」とは、震災以降における全体の回復状況についてお尋ねしています。
- 「進捗状況」とは、直近3ヶ月の進み具合についてお尋ねしています。
- 沿岸北部とは、洋野町、久慈市、野田村、普代村、田野畑村、岩泉町
- 沿岸南部とは、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市、陸前高田市です。

※ この調査は、調査結果の集計、分析について、岩手県立大学総合政策学部の協力を得て行っています。

3 調査結果の概要(1) 被災者の生活の回復に対する実感

○被災者の生活の回復度については、「回復した」「やや回復した」の合計が49.6%と前回より4.5ポイント上がった。また、「回復していない」「あまり回復していない」の合計は27.7%と前回より4.7ポイント下がり、過去最低となった。

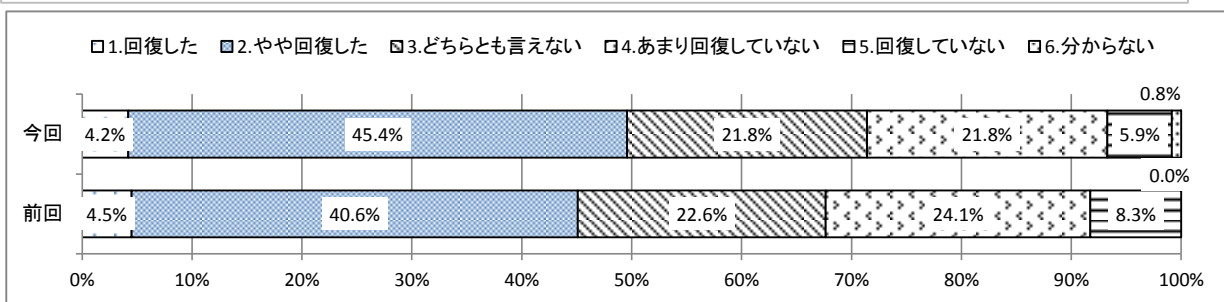
○地域別では、沿岸北部では「回復した」「やや回復した」の合計が59.0%（前回より7.9ポイント上昇）となったのに対し、沿岸南部では45.0%（前回より3.0ポイント上昇）に留まった。

○直近3ヶ月間の回復の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が40.4%と、前回よりわずかに（2.8ポイント）上がり、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は30.2%と前回より4.4ポイント下がり過去最低となった。

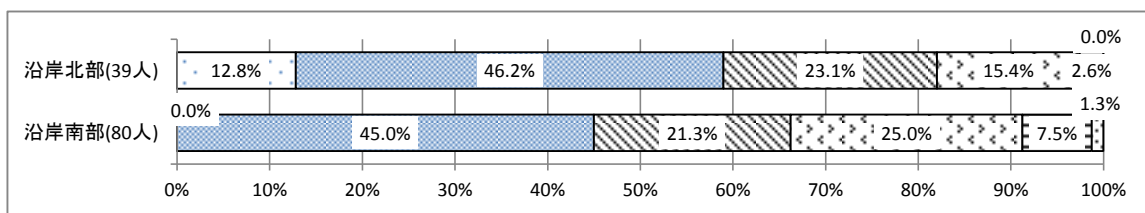
沿岸北部を中心に、災害公営住宅の着工・完成を肯定的に評価する回答が目立ち、そのことが生活の回復の実感を高めることにつながっていると考えられる。また、生活環境の格差の拡大を感じるという意見も多く見られた。

① 被災者の生活の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、被災者の生活は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

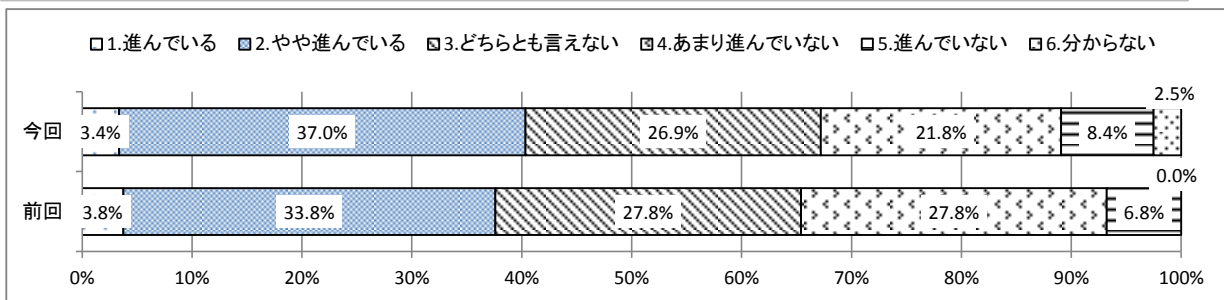


地域別

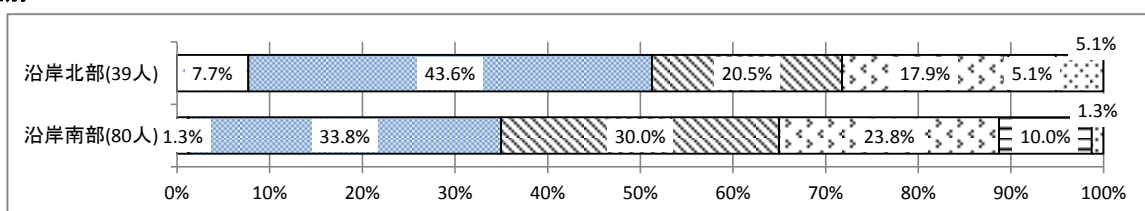


② 直近3ヶ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月間程度)被災者の生活の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んでいる」 の理由	<p>◆私の周囲では被災者の住環境については完全に回復したと思われる。雇用については今のところ国及び県の雇用対策事業等により被災者の雇用は回復しているが、対策事業がなくなった場合の雇用に不安要素がある。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由	<p>◆雇用環境も良好で生活は安定してきている。建設業を中心に好決算の企業が続出し、期末手当の支給やボーナスの増額等により、生活に多少余裕が出てきている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆土砂を積んだダンプが非常に多く走っており、地元住民との交通事故が心配である。一方で、力強い大型ダンプの行き交う姿を見ていると、復興の槌音が聞こえるようで元気が湧いてくる。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆住宅を建てる人が増え、災害復興住宅も徐々に建設されて仮設住宅から引越している。三鉄南リアス線の復旧やBRT運行で高齢者や学生の移動手段が確保されてきている。一方で同じ被災者にも格差が出てきている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆仮設住宅にも慣れ、隣近所、集会所でのお茶ついでに話を花を咲かせたり、スーパーや仮設店舗に連れ立って買物に出かけています。若い方々は、仕事や子供たちなど話題を提供し合っています。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆移転地の造成工事も9月中には終了したいと行政は言っている。工事の進行で心も少し落ち着いてきているように見える。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆材料不足などの理由で自宅建設ができなかった人たちが、自宅を建てています。そのため仮設に空き部屋ができましたが、そこを活用できないでしょうか？他地域から採用された職員が住む所を探せない状況です。(30歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆災害公営住宅の完成により、一部ではあるが入居も始まり、落ち着きを取戻した方々も見受けられる。また、新築住宅を構えた方も数世帯ある。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆震災から2年を経て落ち着いているように見える。しかし、お年寄りや失業している方々は心細いと口にする方も少なくない。市内遊技場は平日でも車が多く停まっており、刹那的に生活を送っている人も多い。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆公営住宅も完成し落成式も行われましたが、その後1ヶ月以上経っても、入居者は2世帯と聞いています。なぜでしょうか？また、墓所がないというのも困ったものです。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆大手の企業が復興に参入し、高い賃金で労働者を集めることで、賃金バブルが発生している。このままでは、地元企業など資金・資本など体力的に弱くなっている企業の倒産などが起きてくるのではと不安です。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆「仮設を出る」ということに焦りを感じている方も変わらず多い。また、住宅を他の地に再建した方からは、「本当にここで良かったのだろうかと思ってしまう」という声も聞かれる。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆災害公営住宅の目処が立たないため、待きれなくなって一般公営住宅に入居した。体調を崩す人が多く、異常気象のせいだけではないようだ。生活道を復旧するのも大事ですが、復興の為の工事も進めてほしい。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆断片的にしか造成地ができていない為、街の将来像が見えてこない。NTT、電力等民間の工事と、公共工事の順番等がバラバラに進められる為、折角立派に造った舗装をまた切り刻んだりしている。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆仮設の食堂のにぎわいや土日の街のイベントなどに参加する人々など、生活に余裕が出てきた人が増えている。一方、災害公営住宅の空き部屋は、仮設住宅に住めるうちは、そのまま居るといことだろう。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆再建しようとしても制度が難しく、話を聞くにも担当が変わり、いつも始めからの話になる。あまり前に進まない。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆高台移転先の大規模認可が下り、これから移転先の工事が着工されるが、その後各自の家屋の建築完成年度が見えない。地元建築業者の契約が3年先まで一杯とのこと。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2) 回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3) 掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連： 急急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連： 小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連： 漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(2) 地域経済の回復に対する実感

○地域経済の回復度については「回復した」「やや回復した」の合計が41.6%と前回より1.3ポイント下がった。また、「回復していない」「あまり回復していない」の合計は28.3ポイント前回より7.2ポイント上がった。

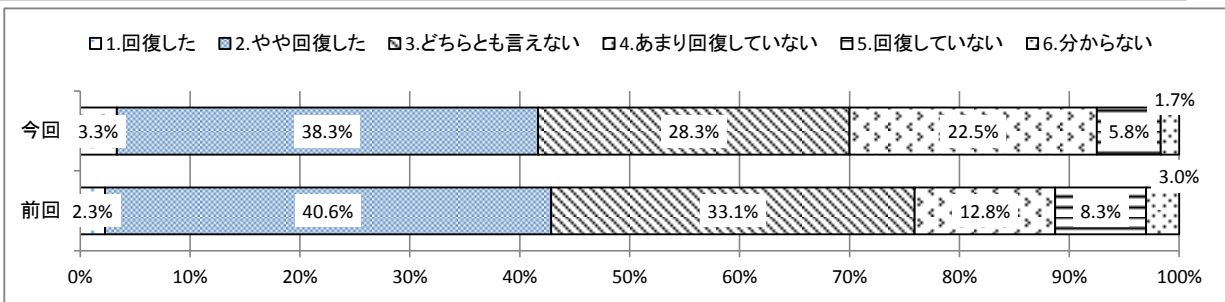
○地域別では、「回復した」「やや回復した」の合計が沿岸北部では46.2%と7.2ポイント下がった。一方、沿岸南部では2.0ポイント上がって39.5%になった。なお、「回復していない」「あまり回復していない」の合計は沿岸北部・沿岸南部とも上がり、それぞれ20.5%・32.1%となった。

○直近3ヶ月間の回復の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計が35.0%と、前回より4.8ポイント下がり1年前の水準を下回った。また、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は30.9%と前回より3.9ポイント上がった。

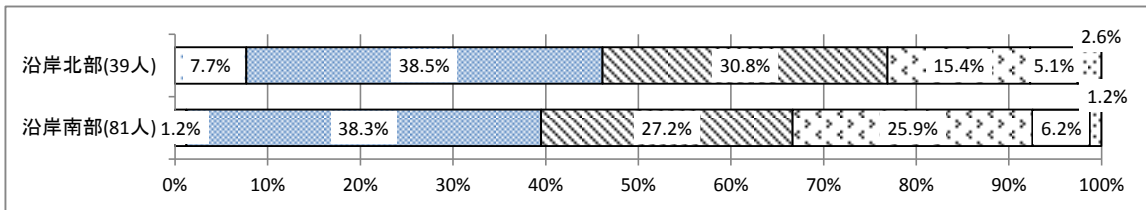
水産業の回復、建設業の好況、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」の効果による観光客増等を肯定的に評価する声も目立ったが、「仮設から本設に動き出す例は少ない」など、地域経済の回復の実感については前回よりも低下している状況にある。

① 地域経済の回復度(震災以降における全体の回復状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、地域経済は被災前と比べてどの程度回復したと感じますか？

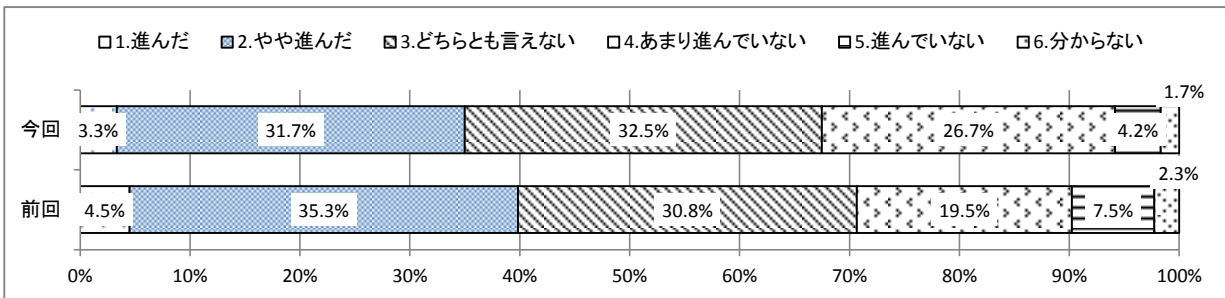


地域別

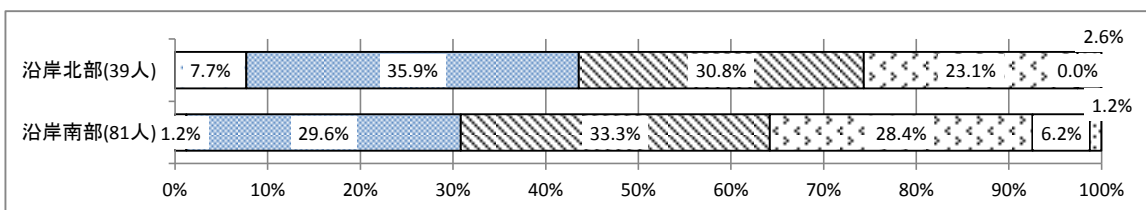


② 直近3ヶ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)地域経済の回復の進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 回復度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
「1.回復した」 又は 「1.進んだ」 の理由	<p>◆基幹産業である建設業が好調さを持続しており、「あまちゃん」効果もあり、小売・宿泊等にも波及してきている。回復が遅れているところ(業種)は震災の影響ではなく構造的な問題が原因。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、男性)</p>
「2.やや回復した」 又は 「2.やや進んだ」 の理由	<p>◆「あまちゃん」効果で活気づいている。地域産業が乗り遅れないよう、このチャンスを活かし経済回復のきっかけにして欲しい。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆浸水した農地は、3分の1の面積であるが、より大きく区画整備され、非常に効率的になった。それにともない、避難道路も広くなり安全になった。(30歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆津波を受けた宿泊施設が再開している。その反面、沿岸南部での大学施設の閉鎖の影響を受ける商店のことをテレビニュースで知り、集客問題が経済回復を妨げていると思った。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆港の整備が進み、そのことによって漁業関連が活性化し回復の兆しが見えてきた。それに伴い宿泊や飲食業などにも良い影響を与えてきている。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆アサリ漁も昨年より活気が見られ、「花見カキ」も販売された。各地域の産直も元気に営業されている。宮古から新しい商品を発信しようという動きや、「街コン」など、賑わいも感じることができるようになった。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆特に、水産業においては、生産体制の基盤整備が着々と進んでいる。そのことから地域経済も回復に向かっているが、電気料金等の光熱費の値上げは事業所においても、各家庭においても大きな影響を及ぼす。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p>
「3.どちらとも言えない」 の理由	<p>◆事業所の再建はグループ補助金で順調に進んでいるが、仮設から本設に動き出す例は少ない。土地区画のスケジュールを明確に示さなければ、仮設のまま廃業する事業者が増加する。宿泊施設が慢性的に不足している。(50歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆ワカメや昆布の漁が始まると、震災前と変わらないように思える。漁業被害はかなりだと思いが、小さな農家にも支援があっても良さそう。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆ゴールデンウィークでこちらに観光に来る人がたくさんいて一時的に観光収入や仮設店舗での売上げが増えたと思うが、それ以降は仮設店舗にあまり人が入らなくなったように思う。仮設店舗の商売も大変だと思う。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆港に新造船が目につき、大型製氷機も各漁協で整備したが、加工業者の人手不足から再開出来ない会社があるのか、港から今一つ活気を感じられない。農林業関係は、支援が不透明なので、回復している実感が湧かない。(不明、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆人々が定着できる産業・企業をいかに誘致したり復旧したりできるか。長期的な雇用の安定化が図られなければ地域経済の回復はなしえないだろうし、人々が市を離れていこう。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>
「4.あまり回復していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由	<p>◆販路拡大に向け、市町村そして県の支援がさらに必要と感じる。大手宿泊業者の進出は、地域経済の回復につながるのか疑問だ。3年目に突入し、被災地も企業利益追求の場となっているような気がする。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆土地を買いだいたいと思っても、4月から制度が変わり土地を購入ができません。困っているし家も建てられません。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸北部、男性)</p> <p>◆プレハブ商店街は、確かに建設・開店当時は賑わったようだが、今は客がなく商売の継続が困難な様子である。(60歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆かつては、震災復興に沸き立つ感もあったが、政権が変わり経済が上向きに転じたあたりから、住民の感覚にも変化が見られる。地元経済の向上よりも、元々経済発展が見られる地域への流出が顕著になってきた。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p>
「5.回復していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由	<p>◆海の仕事を人が別の仕事を始めたり、復興以外の仕事がよくなったという話を聞かない。地域には、まだ仮設の商店ばかりであるから。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

3 調査結果の概要(3) 災害に強い安全なまちづくりに対する実感

○災害に強い安全なまちづくりについては「達成した」「やや達成した」の合計が12.6%（前回より0.6ポイント上昇）、「達成していない」「あまり達成していない」の合計が61.3%（前回より1.1ポイント下降）と前回とほぼ横ばいの結果になった。

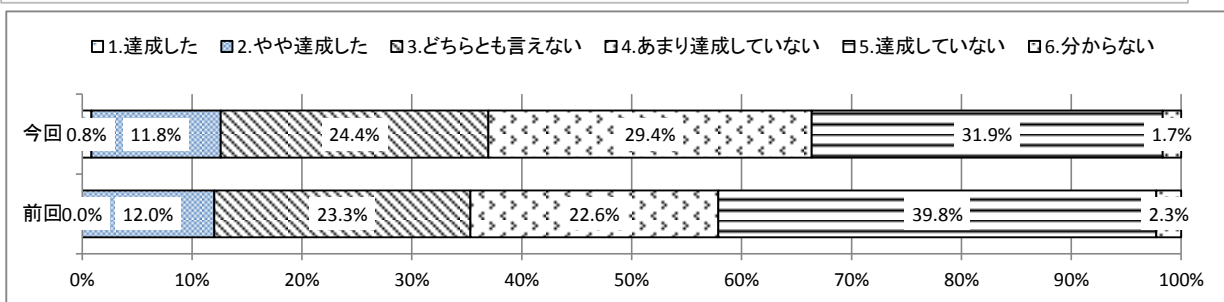
○地域別では、沿岸南部では「達成していない」（38.3%）が最も高いが、沿岸北部では「どちらとも言えない」（31.6%）が最も高い。

○直近3ヶ月間の進捗状況は、「進んでいる」「やや進んでいる」の合計は前回とほぼ横ばいであるが、「進んでいない」「あまり進んでいない」の合計は53.0%と5.6ポイント下がり過去最低となった。

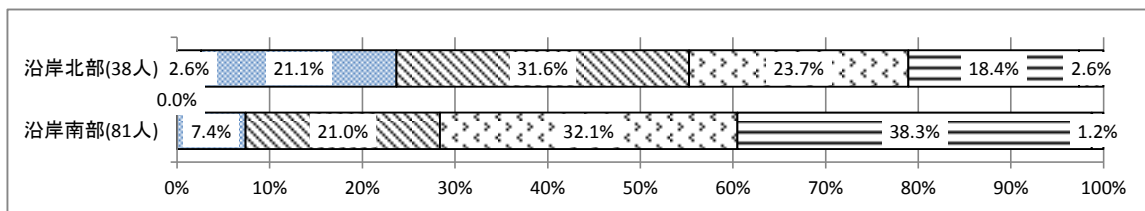
工事の進捗状況に言及する回答が多いが、防潮堤については一部工事は始まっているもののいつ完成するか分からないとの意見が多く見られた。また、「地震が起ころしても避難しない人が多い」など、防災意識等への不安意見が多く見られた。

① 災害に強い安全なまちづくりの達成度(震災以降における全体の達成状況)

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、災害に強い安全なまちづくりは、被災前と比べてどの程度達成したと感じますか？

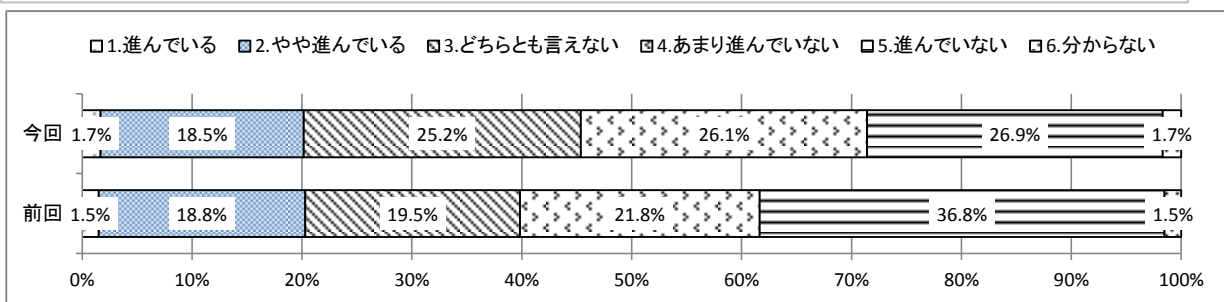


地域別

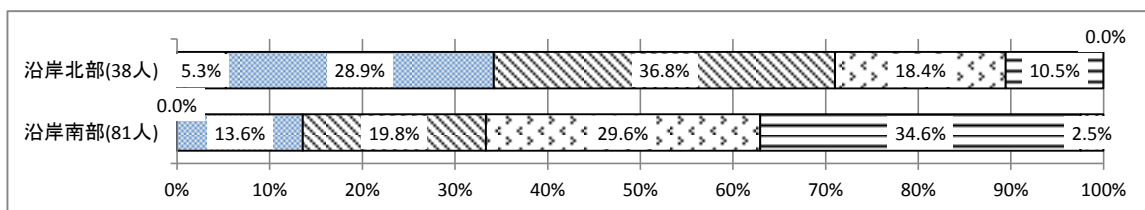


② 直近3ヶ月間(概ね3月から5月)の進捗状況

【設問】 あなたの周囲をご覧になって、最近の(3ヶ月程度)災害に強いまちづくりの進み具合は、どの程度と感じますか？



地域別



*凡例内の () は回答者数を示す

③ 達成度(①)、進捗状況(②)に関する理由[自由記載]

区分	理由(要旨)
<p>「2.やや達成した」 又は 「2.やや進んでいる」 の理由</p>	<p>◆宮古港近くの防潮堤のかさ上げなど、終りに近いようなところを見るとやや進んでいると思うし、災害に強い安全性は達成できていると思う。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆復興計画が示され、工事が進んできたから。各行政区で避難対策等について、より具体的に取り組むようになってきたから。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆堤防が危ない箇所はまだあるが、道路の危険箇所は減ってきている。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p>
<p>「3.どちらとも言えない」 の理由</p>	<p>◆生活面・経済面での復旧は進んでいるものの、災害に強いかどうかは実感できない。避難経路を作ったりなどの工夫は見られるが、やはりハード面での整備と共に、住民の意識の高揚が不可欠と感ずる。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆法の脇・藤の川の歩道が完成し、生徒は市内方面の学校へは陸側、赤前の学校は海側と分けることができ、安全に登校できるようになった。ただし、バス通学の不便さは相変わらず。鉄道の復旧を望む。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆まだ回復とまでは行かないと思うが、防災放送の内容は津波は意識させる内容で良いと思う。(20歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆防波堤や道路整備は徐々に進んでいるとは思いますが、最近住宅ローンの固定金利が値上がりした。景気が上向きになっている為との話がありますが、これから復興住宅を建てる予定の被災者には、何らかの政策が必要。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、男性)</p>
<p>「4.あまり達成していない」 又は 「4.あまり進んでいない」 の理由</p>	<p>◆震災時を思い起こすと、どの程度の津波が来襲するのかわからないという情報がなかったことが犠牲を増大させた。沖にあった波高計が役立つシステム、またはそれに変わるシステムが防災には必要。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆県道の嵩上げ(浸水しない程度)が行われてしばらく経つが、車道の部分だけに止まっており、歩道や路肩の部分が手付かずのため自転車が車道にはみ出してきて非常に危険。特に朝の通勤時や、暗くなってから。(40歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆もともと経済の芳しくない地域であったところにあの震災である。災害に強い町づくりとの目標は素晴らしいが、地域経済の地力がなく、遅々として進んでいない感がある。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸北部、女性)</p> <p>◆NPO問題に振り回されて、他については手が回っていない。土地のかさ上げは手が着いておらず、壊れた堤防もほとんどがそのまま。河口付近に半端に作られている水門はどうするのか。(30歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆相変わらず堤防は壊れたままで、目に見えて復旧はしていない。急いで弱い堤防が完成するよりは、時間をかけて強い堤防にしてもらえればと思うが、歯抜けのような堤防を見るたびに少し怖い。(30歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、女性)</p>
<p>「5.達成していない」 又は 「5.進んでいない」 の理由</p>	<p>◆港付近のがれきは撤去されたものの、道路の穴はそのまま、防潮堤も修復されず土のうが積まれたままの状態である。「まちづくり」以前の問題だと思える。(50歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆復興後の町を設計し、町民に広報等で広く知らせる仕事が進んでいる。国道を山側に一部作り直すことや、学校等の主要施設を建設する場所を明記したことで「何かが進んでいる」と町民は思うことができた。しかし、その工事は始まっておらず、まちづくりはまだまだである。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、女性)</p> <p>◆護岸の一部が完成したが、船曳場が急傾斜で使いにくい。漁民に相談も無かった。お金をかけて作るのだから前のより良く、町全体の防災ビジョンを決定して着工すべき。県・市・国・海岸・道路・住宅などバラバラ。(60歳代、地域団体・郵便局関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆大災害の記憶がうすれている。津波注意報や警報が出たらまず安全な所に避難することの意識がない。国道45号は満潮時でも海面に近い。津波が数十cmでも危ないのに通行しているのはおかしい。(40歳代、産業・経済・雇用関連、沿岸南部、男性)</p> <p>◆防潮堤の建設についての計画は市民に示されているものの、本格的な着工に至っていないから。また、避難道路などの計画は予算的に実現できるものなのか不安に思うところも多い。(40歳代、教育・福祉施設関連、沿岸南部、男性)</p>

注1)「理由」は、趣旨を損なわない範囲内で要旨を記載しています。

注2)回答区分別の理由数は、回答区分の比率に準じています。

注3)掲載内容は、意見の多かった内容、回答者の専門的視点に基づいた内容等を記載しています。

[凡例] 地域団体・郵便局関連：応急仮設住宅の自治会、地域づくり団体等の関係者/郵便局の関係者
 教育・福祉施設関連：小中学校・高等学校の教員/福祉施設の関係者
 産業・経済・雇用関連：漁業・農業の従事者/就業支援員等雇用支援機関の関係者/金融機関の関係者

平成25年【第2回】
「いわて復興ウォッチャー調査」
結果報告書
(平成25年6月)

発行

平成25年6月24日
岩手県 復興局 総務企画課

〒020-8570

岩手県盛岡市内丸10-1

電話(019)-629-6945

ホームページ：いわて復興ネット

<http://www.pref.iwate.jp/view.rbz?cd=39696&ik=0&pnp=14>